

群馬県と長野県の境にある浅間山は、桜島や阿蘇山と並んで、日本列島有数の活火山です。山頂からは常に白煙をあげていて、まるで常時噴火しているように見えますが、そうではありません。あの白煙は「噴煙」ではなく「噴気」と呼ぶべきものです。

「火山の噴火」とは、固体の火山噴出物が、火口壁を越えて噴出した状態を指します。固体の火山噴出物とは、火山弾、火山灰などの「火山砕屑物」を指します。固体とは言えませんが、溶岩も含まれます。しかし、日常的に浅間山に見られるような「噴気」の主成分は、火山ガス（二酸化硫黄や硫化水素）や水蒸気です。それだけなら火山ガスはほぼ透明なはずですが、水蒸気は噴出と同時に冷やされて水滴になるので、雲と同じように白く見えるのです。温泉地の源泉で見られる白煙と同じものです。それに対し、噴火時の噴煙は、必ず黒っぽく見えます。

しかし、時々その噴気はモクモクと立ち上って、実に活火山らしい光景が見られます。今回はその動画です。およそ 30 倍速の動画に編集しています。

(2023 年 8 月中旬／北軽井沢)

